

カラー作品
超ステレオ音響

文部省特選・優秀映画鑑賞会特薦



映画史上、最大のスケールと最高の感動!

ウィリアム・ワイラー監督作品

ベン・Hur



チャールトン・ヘストン / スティーブン・ボイド / ジャック・ホーキンス
ハイヤ・ハラリート / ヒュー・グリフィス / マーサー・スコット
製作サム・ジンバリスト / 脚色カール・タンバーク / 音楽ミクロス・ローザ (MGMレコード)
アカデミー賞11部門に輝く不朽の名作! <この数は1作品がアカデミー賞を獲得した最高の記録である>

MGM映画超大作

CIC配給

6月18日(土)ロードショー!

特別鑑賞券 ¥1,000 絶賛発売中!
(一般 ¥1,300・大学生 ¥1,100) の処

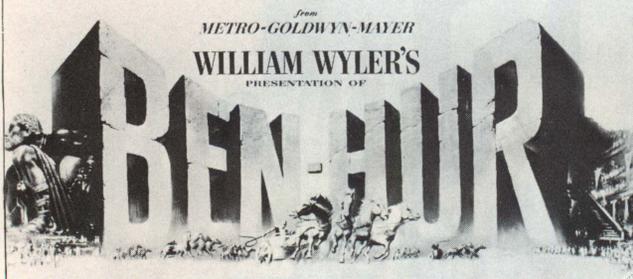
渋谷 パンテオン (407) 7219

新宿 ミラノ座 (202) 1189

製作……サム・ジンバリスト
 監督……ウィリアム・ワイラー
 原作(小説)……ルー・ウォーレス
 脚色……カール・タンバーク
 音楽……ミクロス・ローザ
 撮影監督……ロバート・L・サーティース

〈キャスト〉

ユダ・ベン・ハー……チャールトン・ヘストン
 クインタス・アリアス……ジャック・ホーキンス
 メッサラ……スティーン・ボイド
 エスター……ハイヤ・ハラリート
 族長イルデリム……ヒュー・グリフィス
 ミリアム……マーサ・スコット
 サイモニデス……サム・ジャッフェ
 テイルザ……キャシー・オドネル



「ベン・ハー」と言えば、すぐ戦車競走が連想されましよう。四頭立ての九頭の戦車がしのぎを削る大レースに、主人公ベン・ハー(チャールトン・ヘストン)と宿敵メッサラ(スティーン・ボイド)が死闘を演じる凄絶なシーンは、「どうして撮影したか不思議なくらいだ。」(朝日新聞)と賛嘆されていますが、まさしく最高のスペクタクルとして映画のだいご味を満喫させてくれます。しかし、「ベン・ハー」の偉大さは、単に戦車競走シーンの迫力と、当時にして五十四億円という巨額の製作費を、惜し気もなく注ぎ込んだスケールの大きさはかりではありません。

この映画は、イエス・キリストがこの世に現われ、ローマ帝国の力による世界支配にまつ不安がようやく高まろうとしている、ヨーロッパの夜明けとも言うべき歴史的時代を背景に、ある不幸な出来事から反逆の罪に問われ、肉親から引き裂かれて奴隷の苦痛と屈辱の底に追いやられたベン・ハーという貴公子や、彼の波乱の人生コースに交わる様々なタイプの人間が織り成す、愛と戦いの感動に満ちた一大ドラマであります。

原作は、アメリカ南北戦争の勇士ルー・ウォーレス将軍が書いた小説で、聖書に次ぐ世界的ベストセラーと言われ、舞台でも何回となく上演されていることから、ドラマ性の強さがうかがわれます。

しかも、ここでは、「嵐が丘」「ミニヴァー夫人」「我等の生涯の最良の年」「ローマの休日」「コレクター」などのウィリアム・ワイラー監督が、正確で木目細かい演出を以て、映画のドラマ作家ナンバー・ワンの手腕を遺憾なく発揮し、雄大な感動のドラマを繰り広げます。

製作準備から完成まで実に六年半、戦車レース場の建設だけでも、技術者その他千人以上の人たちが一年以上もかかっていますが、このスケールの大きさもさることながら、全部映写すれば八日かかるという膨大な撮影ネガ・フィルムから、約四時間の長さに編集されたことが、より一層ドラマの密度を高めてすぐれたものになっています。

更に、作品賞、監督賞、男優主演賞、男優助演賞、撮影賞、劇音楽賞、録音賞、編集賞、衣装デザイン賞、美術監督賞、特殊効果賞(視覚、音響)と、一九五九年度アカデミー賞の十一部門をさらいましたが、この偉業は作品の見事さを如実に物語るもので、一作品十一部門の記録は今だに破られておりません。まさに映画史上に不滅の光を放つ空前絶後の名作であります。MG Mカラー作品。

文部省特選

(上映時間 約四時間)

